

白井市文化センターのあり方検討委員会 第 8 回 会 議 次 第

日時 令和4年10月25日(火)
午後1時30分から

場所 白井市文化センター2階中ホール

1 開会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) 提言書(案)の検討について

4 その他

5 閉会

白井市文化センターあり方検討に関する提言書
(検討資料)

令和5年●月

文化センターのあり方検討委員会

令和5年●月●日

白井市教育委員会 教育長 井上 功 様

白井市文化センターのあり方検討委員会
委員長 小川 真実

白井市文化センターあり方検討について（提言書）

白井市文化センター（以降「文化センター」という。）は、文化会館、図書館、郷土資料館、プラネタリウム館の4館からなる複合施設で、平成6年（1994年）の開館以来、これまで市の文化芸術活動や生涯学習活動の拠点として大きな役割を担ってきました。しかし、開館から26年が経過したことで、機器や設備の老朽化が進行して大規模改修が必要な時期を迎えています。

文化センターのあり方検討委員会（以降「検討委員会」という。）は、文化センターの今後のあり方に関して、社会情勢の変化や市民ニーズ等を踏まえて、現状にとらわれずにゼロベースで検討するため、令和3年1月28日に第1回会議を開催しました。

全9回の検討委員会では、検討における前提条件として、近隣市町における文化施設の設置・稼働状況、市の財政状況・人口推計について状況を確認するとともに、各種市民アンケート・関連団体ヒアリング・市民ワークショップ・現地見学会結果の報告を受けました。

その後、施設機能を維持した大規模改修を行うための工事費用に関して確認を行いました。以上を踏まえて、各委員からの意見聴取を行いつつ議論を行ってきました。その内容を基に、次のとおり提言いたします。

1. 文化センターのあり方について

白井市は、昭和54年の千葉ニュータウンの街びらきを契機に、小中学校をはじめとした公共施設を集中的に整備してきたことから、現在はこれらの公共施設が一斉に更新時期を迎えています。

一方、市の財政状況は、高齢化による社会保障費の増加に伴う歳出の増加とともに、人口減少などにより、歳入の根幹をなす税収の大幅な増加は見込めない状況で、公共施設の老朽化対策に多くの財源を振り分けることは難しい状況となっています。

本検討委員会のなかでは、文化センターの現行機能を施設の耐用年数まで維持する場合に必要な大規模改修費として、38.8億円が示されましたが、先の白井市の状況を踏まえると、将来世代に過大な負担を残すことが懸念されます。

以上の状況をふまえ、文化センターは大規模改修を実施することで、機能維持を図るとともに、一部機能については廃止・縮減とすることで、可能な限り財政負担を軽減することを検討する必要があります。

一方で、文化センターは白井市の公共施設として、他の施設にはない文化芸術や社会教育施設の中核としての役割を担っています。大ホールでの発表会や、プラネタリウムでの課外学習活動など、子どもたちの発表や学習の場として、施設機能を維持していきたいという意見もありました。

検討の結果、廃止や縮小となる施設機能に関しては、周辺自治体との共同による公共施設の広域連携の検討。また、市内の他公共施設の機能を文化センター内に移転させることなど、他の公共施設の状況を勘案し、市全体の公共施設の最適化という視点での検討が望まれます。

また、将来的な運営に掛かる費用に関しては、施設内に収益機能を導入することや、民間活力の導入、施設利用料増収のための減免制度の見直しなどを検討することで、経費の削減を図ることも望まれます。

さらに、機能の縮小によって得られる事業費を他の事業で活用する費用に転用が可能であることも念頭に置くことが望ましい。

2. 各施設の方針に関して

○施設全体

空調・給排水・電気設備等については、開館当初から機器の本体更新がほとんど行われていない状況で、近年は不具合も多くなっています。また、施設の安全性確保のためには、大ホールの特定天井、バリアフリー、エレベーターなど既存不適格となっている事項等の改善が必要です。

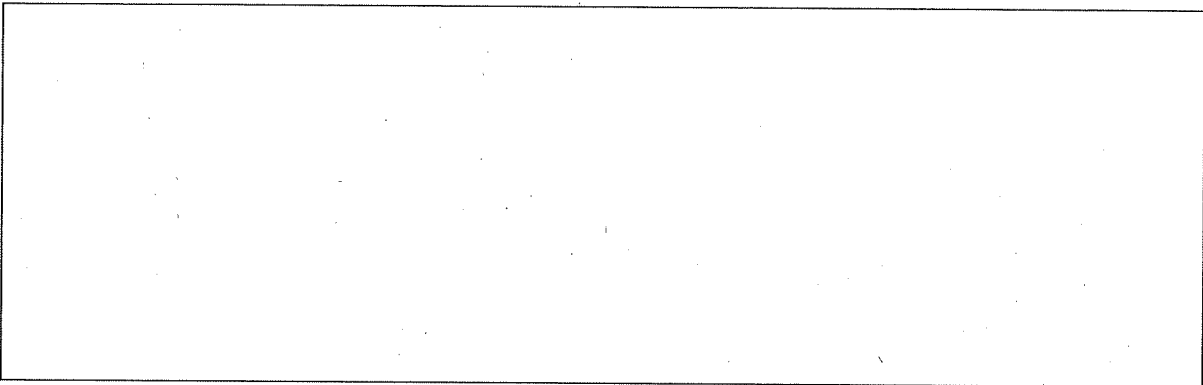
施設の継続利用をするためには、来館者の安全性の確保を最優先とし、限られた予算のなかで優先順位を設定し、適切な更新内容を検討することが望ましいと考えます。

○大ホール

市民の発表の場や優れた文化芸術の場として利用されている、802席の段床形式のホール施設です。舞台設備全般の更新が必要であるほか、来場者の安全性確保のため客席上部の特定天井の改修が必要であることが、施設機能維持を行ううえでの課題となっています。

現行の機能を維持するためには多額の改修費用が掛かること、またホール施設で発表をするという体験の重要性を鑑み、学校や教室等での発表利用を主目的とするなど設備のグレードを抑えた改修内容とすることも考えられます。現状の利用状況を勘案しながら、適切な設備改修とすることが重要だと考えます。また、特定天井改修に関しては、準構造化のほか、ネット改修などの安価な改修方法を併せて検討することで、費用を低減させる検討も進める必要があると考えます。

一方で、再整備に掛かる費用の大幅な低減が見込めることから、大ホールは廃止も検討すべきという意見も挙がっています。その場合には大ホール利用者の発表の場を、今後どのように確保していくのか検討する必要があります。

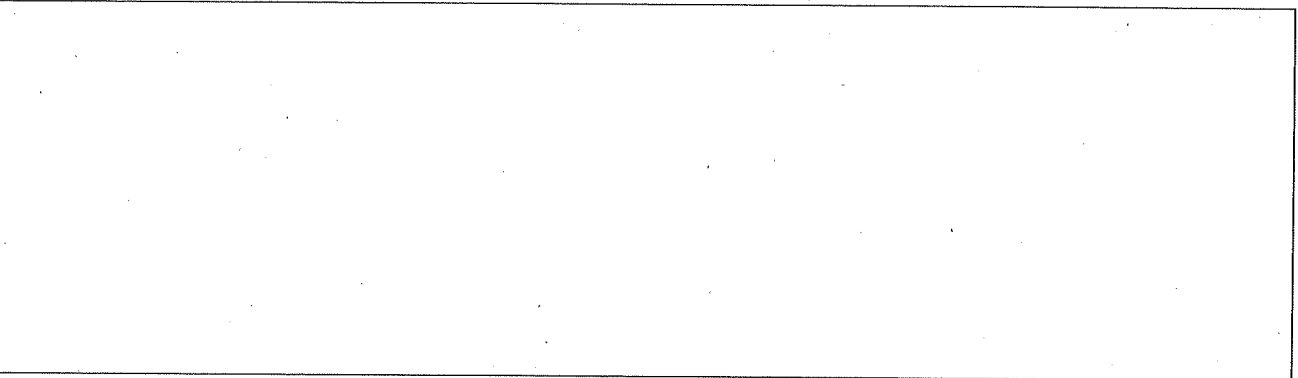


○中ホール

中ホールは、市民活動で利用しやすい300席規模の平土間型ホール施設です。利用状況を見ると、演奏会や講演会、展示会など、市民の発表・展示の中心の場として幅広く利用されています。

大ホール同様に舞台設備全般の劣化が見られるほか、遮音性能が低いことから、図書館やプラネタリウムなどへの音漏れが発生していることが施設利用上の課題となっています。

また、中ホール機能を廃止し内装改修を行うことで、市内の他公共施設機能を入れ込み、市全体の公共施設の集約化を図るという案も挙げられました。



○図書館

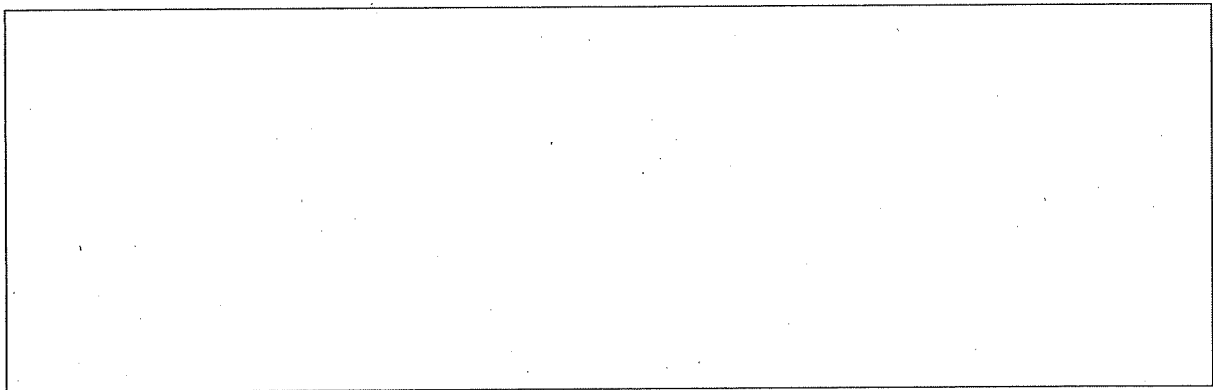
蔵書数は人口規模に対して非常に多い傾向にあり、現施設は充実した図書館機能を有していると言えます。また、市内には書店がないため、市民が本に気軽に触れる場としての役割も担っています。

蔵書の更新が頻繁に行えないこと、セキュリティシステムの導入ができていないことなどが運営上の課題となっています。

現状の蔵書数を維持するという意見のほか、機能向上に関する意見としては、電子書籍の導入、多様な来館者や読書形態に応じた読書スペースの整備、ワーキングスペースや学習スペースなど来館者が自由に過ごすことができる場所を整備したいなどの意見が挙がりました。

一方で、蔵書や開架部分の面積を縮小し、市の規模に見合った施設規模に縮小するという意見も挙がりました。

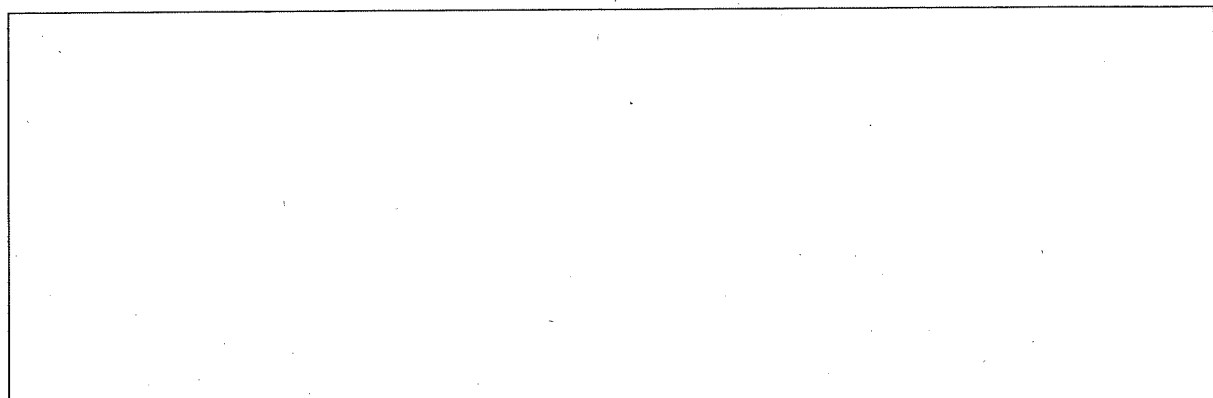
また、施設規模の縮小によって得られるスペースに他の公共施設を移転させ、更なる施設の複合化を推進することにより、市の持つ公共施設の総量を削減すべきとの意見がありました。



○郷土資料館

市の郷土資料の収集・展示を行う機能を担う市内唯一の施設です。展示ケース等の経年劣化のほか、収蔵スペースが不足していることが課題となっています。

市ならではの施設であることから今後も維持していく必要があるという意見が挙がった一方で、市内の別の場所に移転させることでスペース不足の解消を図る、近隣市町とともに広域連携を行うことで、文化センター内に別の施設機能を入れ込むという案も挙げられました。

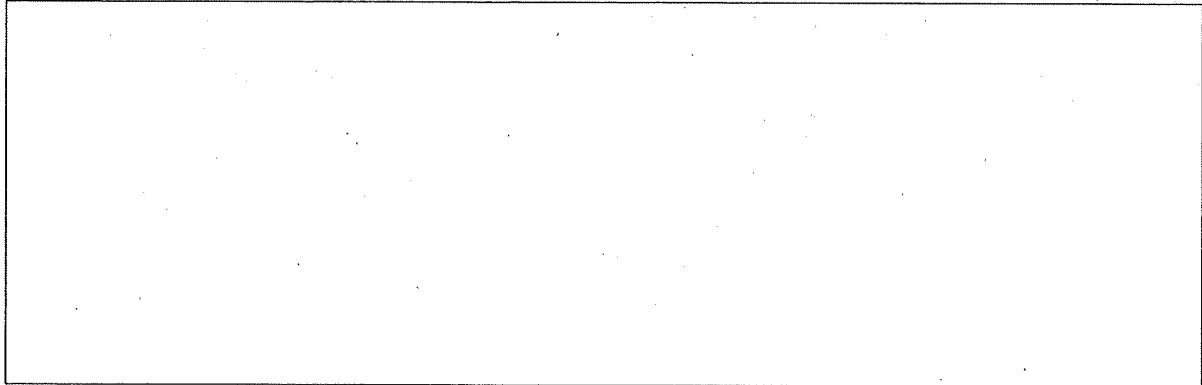


○プラネタリウム館

市内で唯一のプラネタリウム施設として、市内小・中学生の学習利用が一定数あるほか、オリジナルのプログラムを作成している施設です。

一方で、施設の採算性が低いことが運営上の課題となっています。

学習利用においては重要な役割を担っているため、施設機能を維持したいという意見のほか、周辺自治体にもプラネタリウム機能があることなどから機能廃止としたいという意見も挙がりました。



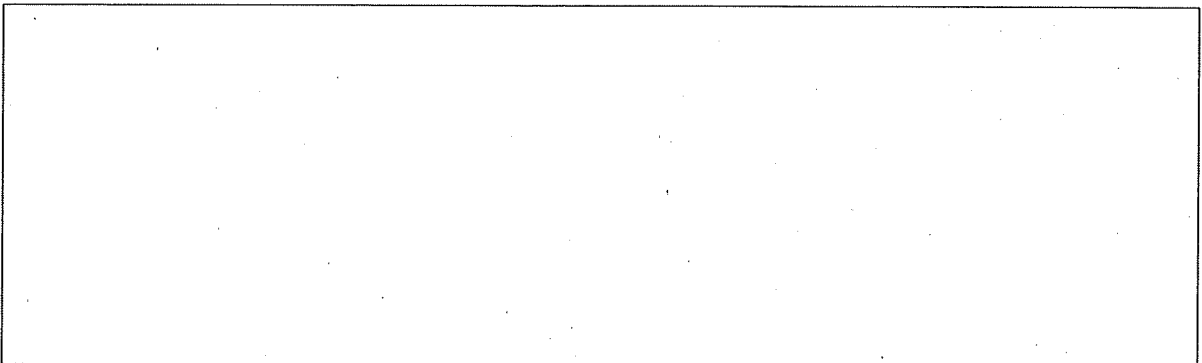
○エントランス等共用スペース

大ホール棟、図書館棟の2棟をつなぐエントランスは、中庭に面した開放的な空間で、来館者の憩いの場所となっています。

文化センターの主要な機能を補完する用途として、コワーキングスペースや自習スペースなどへ利活用するという意見がありました。

また、大ホールのエントランスから直接トイレに入れなかったことによって、開演までの待ち時間にトイレを使えないといった問題も提起されています。

喫茶スペースでは、自動販売機を設置し、読書しながら飲食が可能なスペースにできると良いという意見もありました。



3. 施設の整備方針に関して

本検討委員会のなかでは、文化センターや各施設機能のあり方に関して、市の上位計画や財政状況、施設の利用状況・劣化状況等への検討を通して、現状維持から廃止まで様々な意見が挙がりました。挙げられた各施設のあり方については、本検討委員会での議論内容を十分に踏まえつつ、市が新しい施設の方針を示し、それに沿った再整備が行われることが望まれます。

文化センターのあり方検討委員会の経過

- 令和3年1月28日 第1回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]
- 令和3年3月16日 第2回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]
- 令和3年6月29日 第3回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]
- 令和3年11月5日 第4回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]
- 令和4年3月18日 第5回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]
- 令和4年5月31日 第6回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]
- 令和4年8月16日 第7回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]
- 令和4年10月25日 第8回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]
- 令和5年●月●日 第9回文化センターのあり方検討委員会
[テーマ]

文化センターのあり方検討委員会 委員名簿

資料編

- ・市民センター改修に関する概算資料（改修竹案）
- ・第6・7回検討委員会 意見まとめ

提言書（検討資料）記載用紙

委員名 _____

○施設全体

※ 施設全体とは、施設全体に関連してくる設備や外壁、屋根、防水などの建物外部、共用部分の設備、建物の法的な不適合などへのご意見を記載してください。

○大ホール

規模拡大 現状維持 規模縮小 廃止 その他

理由：

※ 5つの□にご自分の意見と合う箇所に☑を記入してください。
また、その理由を記載してください。その他の場合は理由記載欄にご意見を記載してください。

○中ホール

規模拡大 現状維持 規模縮小 廃止 その他

理由：

※ 5つの□にご自分の意見と合う箇所に☑を記入してください。
また、その理由を記載してください。その他の場合は理由記載欄にご意見を記載してください。

○図書館

規模拡大 現状維持 規模縮小 廃止 その他

※ 5つの□にご自分の意見と合う箇所に☑を記入してください。
また、その理由を記載してください。その他の場合は理由記載欄にご意見を記載してください。

○郷土資料館

規模拡大 現状維持 規模縮小 廃止 その他

※ 5つの□にご自分の意見と合う箇所に☑を記入してください。

また、その理由を記載してください。その他の場合は理由記載欄にご意見を記載してください。

○プラネタリウム館

規模拡大 現状維持 規模縮小 廃止 その他

※ 5つの□にご自分の意見と合う箇所に☑を記入してください。

また、その理由を記載してください。その他の場合は理由記載欄にご意見を記載してください。

○エントランス等共用スペース

※ エントランス等の共用部分については、廃止や縮小などの対応はとれませんので、施設の有効活用策などのご意見を記載してください。

第6、7回委員会で挙げられたご意見まとめと各施設の方針案

施設	方針(案)	挙げられた意見
施設全体	一部廃止	<ul style="list-style-type: none"> 人口推計から今後歳入の縮小が見込まれるため、すべての施設を残すのは厳しいのではないか。 4つの機能は全て残してほしいが、やはり縮小は考えなければならぬ。組織の再編・行政改革などについても知恵を出しながら取り組んでいただきたい。
	縮小	<p>【市内公共施設の統合など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館・コミュニティ施設・複合施設があるので、統合できないか。 廃止とは言わずともできる限り縮小し、他の機能を併せ持つ、使っていない空間・跡地を利用し収益性のある施設を入れて集客力を高めるなどの取り組みが必要。 <p>【コストカット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 更なるコスト減と公共施設の効率化を図らないと、縮小案でも厳しいのではないか。 <p>【市にとって魅力的な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> 白井市のランドマークでもあり、今後統廃合していく施設もあると思う。市全体で見ても費用を抑えつつ、文化センターは存続してほしい。 将来的な転入者の増加、企業や学校の誘致に有効な施設である。縮小があったとしても維持する、一時的に止めたとしても復活するためのプランも一緒に立てられないか。
	その他	<p>【ソフト面での改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事で来館した子どもたちがリピートする仕組みを全館で行ってはどうか 白井市内にある別の老朽化した施設・実施しなければならぬ業務を文化センターに持つてくるのはどうか。 <p>⇒市には施設の管理計画があり、各施設が老朽化を迎えている状況。それらの機能を複合化しどこかに集め、ある建物は役目を終わらせるというような検討は今後、随時進めていく必要があるため、文化センターにそのようなスペースがある場合は検討の余地がある。</p> <p>【財源確保のアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 減免の割合を減らす、利用料を値上げすることはできないか。⇒減免の割合について再検討することは不可能ではない。 クラウドファンディングを検討できないか。⇒実績や知名度がないとお金が集まらない。
	廃止	<p>【財政】</p> <ul style="list-style-type: none"> 財政的な体力を考慮すると、大ホールを18億円かけて維持するメリットが見つけづらい。大ホールは廃止が現実的。 多大な金額がかからないなら残してほしいが、子どもたちにとって「大ホールで」発表することがそこまで必要なのか疑問。⇒学校関係者より、【学校利用との関係】に記載の意見が挙がった。
	一部廃止	<p>【特定天井】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定天井については、ホールに求める機能によっては天井を無くしてしまう方法（体育館など）や、全面には張らず一部に反響板を置く方法もある。 持っているだけで特定天井の改修費がかかるとなれば、屋根を外して屋外にする、バーチャルにするなど何らかの形で教育的な体験が可能になる施設を検討出来たら良い
大ホール	縮小	<p>【講演会レベルに絞るなどハード面での縮小案】</p> <ul style="list-style-type: none"> プロの公演は都内に出れば鑑賞可能であるため、講堂レベルの設備に絞り、市民の交流の場としての役割に焦点を当てても良いのではないか。 ハードとしては残し、性能を下げたい。 設備のグレードを下げると維持費も下がるのか。 あまり変わらないならば今の機器が壊れてしまった時に見直す方が良いのか。 縮小しても箱の能力は減らしたくない。音響が良いので、照明は足そうと思えば足せるように工夫してはどうか。 学校行事、成人式が可能なレベルの縮小。他の施設を使うにしてもこの規模はなかなかない <p>【ソフト面での縮小案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 土日の発表が多いと思うので、休館日を増やすのはどうか。 冷暖房が改善されなかった場合、冬季閉館にするのも手ではないか（できればより良い状態で使った方が良い）。
	維持 (機能の見直し含む)	<p>【現在の利用状況から必要な設備を検討する案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現大ホールで行なわれる催事の実績を鑑み、どの程度の設備が必要か検討してはどうか。 (野外ステージなどでも代用可能かどうか) <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の発表会ができる機能は残してほしい、市内の学校の優秀なクラスが集まることもある。 (現大ホールは多目的ホール、音楽発表会の際は反響板を設置している)。 学校が快適に使えることを一つの指標とするのは良いのではないか。 体育館と比較して、保護者の感動・子どもたちの達成感の違いは大きかった。 教育現場としては、未来の子どもたちへの投資として残してほしい。子供たちの練習の場・発表の場として素晴らしい施設。 若い世代や子育て世代のための文化ホール、というのは1つの視点としてありうる。
中ホール	縮小(転用含む)	<p>【機能の転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中ホールは音響的に音楽・発表会の利用は難しいので講演会・会議利用に特化させるか、ホールとしての機能は廃止し、このスペースを貸しスペースとする、市内の他機能を持つてくるのはどうか。 収益上がる使い方に転用することも考えられる。
	維持	<p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の発表会では中ホールは使わない、他市の施設を使うのは時間・金額・予約的に非常に難しい。 エレベーターについては安全確保の問題なので改修が必要。 バリアフリーについては法的な強制力はないが、公共施設として、改修時には十分配慮する必要がある。 大ホールと中ホールを総合的に見て、どちらかを伸ばしどちらかを縮小するという考え方はありうる。 大ホールと中ホール、どちらかに集約できないか。 人口規模を考えると中ホールのみでも良いのではないか、大ホールが必要なら近隣の市に行くなど。 アンケートやワークショップの意見から、市民がこれからの場所で行いたいのか項目を絞っていくと、それでもこのハードが必要なのか、外部で代替しても良いのか見えてくるのではないか。
文化会館全体への意見、方針	部分的な改修の必要性 大ホールと中ホールの役割分担 市民意見に基づき検討	

施設	方針(案)	
図書館	縮小(機能改善含む)	<p>【公民館図書室への機能集約、中央図書館機能の必要性の再検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館図書室を使っていたことで文化センターの図書館を縮小することは可能か。 ・盗難が非常に多かったと聞くと、貸出のみに機能を縮小させた方が良いように思われる。 ⇒市内に書店がないため本を見に来る場所にもなっており、居場所としての役割、図書館システムの電算機器の中核がある。また、公民館図書室では、インターネットやデータベースが使用できないため、公民館図書室のみで図書館運営を行うのは難しい。 ・図書館のレイアウトを変更して規模を縮小することは可能かもしれない。 ⇒半開架として基本は貸出業務、閲覧スペースを限定する、というようにゾーン分けする方法はある。 【スペースの縮小による他機能の設置】 ・市に対しては規模が大きいため、縮小し空いたスペースに別の機能を置くこともありうると思う 【トイレの動線見直し】 ・1階のトイレについて、図書館内に入らなくてもアクセスできるようにしてほしい。 <p>【多世代による利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちだけでなく現役世代・高齢者も非常に多く利用されるので残してほしい。 <p>【今後の図書館のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館をうまく使うためには、デジタル化や配達、幼稚園・小・中学校との連携が重要。 ・コロナ以降PCを持ち込み作業する方が増えている、電源を整備すれば若い世代の利用も増えるのではないかと。 ・サンスクリプションサービスも普及しているので、図書館としてマンガや雑誌は撤退しても良いのではないかと。 <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では図書館から資料を取り寄せることもあり図書館の費用で巡回車を出してもらっている。 ・図書館は子供たちの成長・経験に大きく影響していると思うので、残してほしい。 <p>【子どもが過ごしやすい環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の声が響くと苦情が多いため、子どもは中庭も利用できるようにしてほしいかと。 ・子供たちがいられるスペースと静かに本を読めるスペースのすみ分けを行う。 <p>【機能移転の可能性の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の他の場所に移転することも方法の一つとして考えられる。 ・展示スペースは市役所に置いた方が多くの人に覚えてもらえて良いのではないかと。 ・展示スペースは図書館・市役所・公民館をローテーションしている例もある。 ・廃止するのではなく、文化センター外で展示機能と倉庫機能を分けてはどうか。 <p>【機能移転を検討するにあたって考慮すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光や湿度に注意しなければならない資料はそれなりの設備がある環境が必要。 ・市の歴史を知ってもらう上で、出来れば図書館の近くにあったほうが良い。 <p>【他機能への転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機能への転用を考えた方が良いのではないかと。 <p>【他市との共同運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料は他の地域と比較してみた方が学習効果があるので、広域連携し他の自治体と共同で持つても良いのではないかと。 ・今後も資料の保存をしていくうえで展示スペース、収蔵スペース共に不足している、長年の課題。 ・白井市の郷土資料館を他市に作るわけにはいかないで廃止できない <p>【採算面の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入が増えないと積極的には残しづらい印象。 ・施設の採算性に課題がある。 ⇒採算を合わせるためには相当な値上げが必要になってしまうが、集客面で値上げは現実的でない。 ・白井のプラネタリウムは生涯学習・学校教育・白井の顔という3本柱で運営しているため、赤字に転換する考え方は難しい。 <p>【近隣との役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣にもプラネタリウムは複数あり。利用頻度も高くないので、本当に必要な施設なのか検討が必要。 <p>【他機能への転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムを廃止しても、子供たちのためのスペースとして有効活用することは可能ではないかと <p>【市のシンボリックな役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムがあるということは白井市の宣伝・売りになる。 ・独自の事業を実施しているが、駅などもう少し人目につきやすいところでPRしてはどうか。 ⇒広報宣伝は既に積極的に行っている。 <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業や幼稚園の行事で利用があるため、学校としては残してほしい。 ⇒万が一廃止となった場合、校外学習に行くための予算をつけるなどの措置がない限り他市施設の利用は不可能。
郷土資料館	一部廃止(移転) 縮小 その他	<p>【多世代による利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちだけでなく現役世代・高齢者も非常に多く利用されるので残してほしい。 <p>【今後の図書館のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館をうまく使うためには、デジタル化や配達、幼稚園・小・中学校との連携が重要。 ・コロナ以降PCを持ち込み作業する方が増えている、電源を整備すれば若い世代の利用も増えるのではないかと。 ・サンスクリプションサービスも普及しているので、図書館としてマンガや雑誌は撤退しても良いのではないかと。 <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では図書館から資料を取り寄せることもあり図書館の費用で巡回車を出してもらっている。 ・図書館は子供たちの成長・経験に大きく影響していると思うので、残してほしい。 <p>【子どもが過ごしやすい環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の声が響くと苦情が多いため、子どもは中庭も利用できるようにしてほしいかと。 ・子供たちがいられるスペースと静かに本を読めるスペースのすみ分けを行う。 <p>【機能移転の可能性の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の他の場所に移転することも方法の一つとして考えられる。 ・展示スペースは市役所に置いた方が多くの人に覚えてもらえて良いのではないかと。 ・展示スペースは図書館・市役所・公民館をローテーションしている例もある。 ・廃止するのではなく、文化センター外で展示機能と倉庫機能を分けてはどうか。 <p>【機能移転を検討するにあたって考慮すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光や湿度に注意しなければならない資料はそれなりの設備がある環境が必要。 ・市の歴史を知ってもらう上で、出来れば図書館の近くにあったほうが良い。 <p>【他機能への転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機能への転用を考えた方が良いのではないかと。 <p>【他市との共同運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料は他の地域と比較してみた方が学習効果があるので、広域連携し他の自治体と共同で持つても良いのではないかと。 ・今後も資料の保存をしていくうえで展示スペース、収蔵スペース共に不足している、長年の課題。 ・白井市の郷土資料館を他市に作るわけにはいかないで廃止できない <p>【採算面の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入が増えないと積極的には残しづらい印象。 ・施設の採算性に課題がある。 ⇒採算を合わせるためには相当な値上げが必要になってしまうが、集客面で値上げは現実的でない。 ・白井のプラネタリウムは生涯学習・学校教育・白井の顔という3本柱で運営しているため、赤字に転換する考え方は難しい。 <p>【近隣との役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣にもプラネタリウムは複数あり。利用頻度も高くないので、本当に必要な施設なのか検討が必要。 <p>【他機能への転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムを廃止しても、子供たちのためのスペースとして有効活用することは可能ではないかと <p>【市のシンボリックな役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムがあるということは白井市の宣伝・売りになる。 ・独自の事業を実施しているが、駅などもう少し人目につきやすいところでPRしてはどうか。 ⇒広報宣伝は既に積極的に行っている。 <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業や幼稚園の行事で利用があるため、学校としては残してほしい。 ⇒万が一廃止となった場合、校外学習に行くための予算をつけるなどの措置がない限り他市施設の利用は不可能。
プラネタリウム	廃止 維持	<p>【多世代による利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちだけでなく現役世代・高齢者も非常に多く利用されるので残してほしい。 <p>【今後の図書館のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館をうまく使うためには、デジタル化や配達、幼稚園・小・中学校との連携が重要。 ・コロナ以降PCを持ち込み作業する方が増えている、電源を整備すれば若い世代の利用も増えるのではないかと。 ・サンスクリプションサービスも普及しているので、図書館としてマンガや雑誌は撤退しても良いのではないかと。 <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では図書館から資料を取り寄せることもあり図書館の費用で巡回車を出してもらっている。 ・図書館は子供たちの成長・経験に大きく影響していると思うので、残してほしい。 <p>【子どもが過ごしやすい環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の声が響くと苦情が多いため、子どもは中庭も利用できるようにしてほしいかと。 ・子供たちがいられるスペースと静かに本を読めるスペースのすみ分けを行う。 <p>【機能移転の可能性の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の他の場所に移転することも方法の一つとして考えられる。 ・展示スペースは市役所に置いた方が多くの人に覚えてもらえて良いのではないかと。 ・展示スペースは図書館・市役所・公民館をローテーションしている例もある。 ・廃止するのではなく、文化センター外で展示機能と倉庫機能を分けてはどうか。 <p>【機能移転を検討するにあたって考慮すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光や湿度に注意しなければならない資料はそれなりの設備がある環境が必要。 ・市の歴史を知ってもらう上で、出来れば図書館の近くにあったほうが良い。 <p>【他機能への転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機能への転用を考えた方が良いのではないかと。 <p>【他市との共同運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料は他の地域と比較してみた方が学習効果があるので、広域連携し他の自治体と共同で持つても良いのではないかと。 ・今後も資料の保存をしていくうえで展示スペース、収蔵スペース共に不足している、長年の課題。 ・白井市の郷土資料館を他市に作るわけにはいかないで廃止できない <p>【採算面の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入が増えないと積極的には残しづらい印象。 ・施設の採算性に課題がある。 ⇒採算を合わせるためには相当な値上げが必要になってしまうが、集客面で値上げは現実的でない。 ・白井のプラネタリウムは生涯学習・学校教育・白井の顔という3本柱で運営しているため、赤字に転換する考え方は難しい。 <p>【近隣との役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣にもプラネタリウムは複数あり。利用頻度も高くないので、本当に必要な施設なのか検討が必要。 <p>【他機能への転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムを廃止しても、子供たちのためのスペースとして有効活用することは可能ではないかと <p>【市のシンボリックな役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムがあるということは白井市の宣伝・売りになる。 ・独自の事業を実施しているが、駅などもう少し人目につきやすいところでPRしてはどうか。 ⇒広報宣伝は既に積極的に行っている。 <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業や幼稚園の行事で利用があるため、学校としては残してほしい。 ⇒万が一廃止となった場合、校外学習に行くための予算をつけるなどの措置がない限り他市施設の利用は不可能。
共用部	その他	<p>【多世代による利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちだけでなく現役世代・高齢者も非常に多く利用されるので残してほしい。 <p>【今後の図書館のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館をうまく使うためには、デジタル化や配達、幼稚園・小・中学校との連携が重要。 ・コロナ以降PCを持ち込み作業する方が増えている、電源を整備すれば若い世代の利用も増えるのではないかと。 ・サンスクリプションサービスも普及しているので、図書館としてマンガや雑誌は撤退しても良いのではないかと。 <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では図書館から資料を取り寄せることもあり図書館の費用で巡回車を出してもらっている。 ・図書館は子供たちの成長・経験に大きく影響していると思うので、残してほしい。 <p>【子どもが過ごしやすい環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の声が響くと苦情が多いため、子どもは中庭も利用できるようにしてほしいかと。 ・子供たちがいられるスペースと静かに本を読めるスペースのすみ分けを行う。 <p>【機能移転の可能性の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の他の場所に移転することも方法の一つとして考えられる。 ・展示スペースは市役所に置いた方が多くの人に覚えてもらえて良いのではないかと。 ・展示スペースは図書館・市役所・公民館をローテーションしている例もある。 ・廃止するのではなく、文化センター外で展示機能と倉庫機能を分けてはどうか。 <p>【機能移転を検討するにあたって考慮すべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光や湿度に注意しなければならない資料はそれなりの設備がある環境が必要。 ・市の歴史を知ってもらう上で、出来れば図書館の近くにあったほうが良い。 <p>【他機能への転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機能への転用を考えた方が良いのではないかと。 <p>【他市との共同運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料は他の地域と比較してみた方が学習効果があるので、広域連携し他の自治体と共同で持つても良いのではないかと。 ・今後も資料の保存をしていくうえで展示スペース、収蔵スペース共に不足している、長年の課題。 ・白井市の郷土資料館を他市に作るわけにはいかないで廃止できない <p>【採算面の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入が増えないと積極的には残しづらい印象。 ・施設の採算性に課題がある。 ⇒採算を合わせるためには相当な値上げが必要になってしまうが、集客面で値上げは現実的でない。 ・白井のプラネタリウムは生涯学習・学校教育・白井の顔という3本柱で運営しているため、赤字に転換する考え方は難しい。 <p>【近隣との役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣にもプラネタリウムは複数あり。利用頻度も高くないので、本当に必要な施設なのか検討が必要。 <p>【他機能への転用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムを廃止しても、子供たちのためのスペースとして有効活用することは可能ではないかと <p>【市のシンボリックな役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムがあるということは白井市の宣伝・売りになる。 ・独自の事業を実施しているが、駅などもう少し人目につきやすいところでPRしてはどうか。 ⇒広報宣伝は既に積極的に行っている。 <p>【学校利用との関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業や幼稚園の行事で利用があるため、学校としては残してほしい。 ⇒万が一廃止となった場合、校外学習に行くための予算をつけるなどの措置がない限り他市施設の利用は不可能。 <p>・エントランスでピアノのコンサート等は行えないか。</p> <p>・コミュニケーション・市民との交流という点を重視し、エントランスにピアノを置いて市民が利用できるように開かれた運営を行ってほしい。多くの市民が音楽に触れたり、図書館に来た帰りに家族で鑑賞していただいたりできる環境があると良い。</p> <p>→(エントランスにピアノを置くことについて) できないことはないが、ピアノの移動が難しい。</p>

提言書（検討資料）記載用紙結果一覧

この資料は、令和4年10月21日（金）12時までに事務局に届いた「提言書（検討資料）記載用紙」を取りまとめたものです。取りまとめ方針は以下のとおりです。

- (1) 「施設全体」及び「エントランス等共用スペース」については、委員個人の意見を転載して全て掲載しました。
- (2) 4館（大ホール・中ホール・図書館・郷土資料館・プラネタリウム館）については、規模拡大・現状維持・規模縮小・廃止・その他の各チェック数を集計しました。集計にあたり、2ヶ所（例えば「現状維持」と「その他」）にチェックを入れてある場合は、両方でカウントしてありますので、合計数が委員総数を超えるものがあります。また、「どちらともいえない」とされた意見については、「その他」に含めています。
- (3) 4館の選択肢で「その他」を選択された方の意見については、委員個人の意見を転載して全て掲載しました。
- (4) 結果一覧の後に、委員から提出された「提言書（検討資料）記載用紙」のコピーをそのまま添付しています（氏名のみ匿名としています）。

○施設全体

- ・建物の法的な不適合部分の適合化はもちろんのこと、建物の安全性を確保し、建物機能を維持するための改修は必要なので、いかに安価にできるかを検討する必要性はあると思います。耐用年数が半分以上残っている財産ですので、廃止はあり得ないと思いますが、他施設との機能統合を検討していくことが有用であると思われます。外壁；タイル剥離の調査及び補修、屋根、防水：劣化調査の後修補時期の策定。EV：適法への改修、特定天井：大ホールの提言次第。
- ・文化センターのあり方に関する意見には、持続可能な白井市の行政を維持することを前提に具申するものである。白井市は、1964（昭和39）年に町制を発足した旧白井町を母体とし、2001（平成13）年に市政を発足し、こんにちに至っている。1994（平成6）年7月に町政30周年を記念し、文化会館・図書館・プラネタリウム館・郷土資料館からなる複合施設の白井市文化センターを建設した。白井市文化センターは、文化の創造や鑑賞あるいは生涯学習やコミュニティ活動の場として幅広く利用できる施設として、多くの住民に知られてきた。しかしながら、わが国は人口減少社会に突入し、自治体の財政格差が顕著になっていくことが予見され、経営の巧拙が自治体の命運を分けると見込まれる。自治体が管理する公共施設の再編が重要な課題になる。また、国や民間による情報通信技術やデジタル技術の普及に向けた取り組みが新型コロナウイルスの世界的な流行により、新しい生活様式への移行というかたちで加速している。これを踏まえ、文化センターはデジタル技術など普及しつつある技術を受け入れつつ、自治体財政の身の丈に合った改修や運営が必要になるだろう。文化センター自体を、廃止せずに存続させるならば、施設全体の建物外部については老朽化した箇所の修繕に留め、共用部分の設備や建物の法的な不適合などはそれを是正する措置に留めるべきだろう。むろん、財政の範囲内という制約条件が付与されるものと考えている。

- ・(1) 機能は、4館とも「維持」する。(2) 規模は、必要に応じて「縮小」を検討する。(3) 市の施設に「クラウドファンディング」の導入を検討する。(4) 公共施設につき、改めてバリアフリーの点検・見直しを行う。(5) 教育文化施設に、独立採算性や収益性は馴染まない。教育は、投資です。
- ・安全を維持するための修繕は必要であるが、財源確保がかなり厳しいことがわかった。修繕できない施設は使用不可にする等縮小せざるを得ない。
- ・少しでも収益を上げる方策があると良いです。
- ・文化センターと他施設との一部統合や役割分担など設備の縮小や施設全体でのコスト削減に取り組みつつ、市の文化発信のシンボリックな施設として存続する。市民はもちろん未来を担う子どもたちが質の高い文化的活動に触れられる場所にする。財政状況の厳しさを踏まえれば存続には新たな財源確保が必須です。今の財政状況を見て縮小や一部廃止を行ったとしてもいつかは廃止となり、今後は文化センターに留まらず他の施設やサービスも廃止となりかねない。非常識と思われるほどのアイデアで文化センターを活用することで財源確保や市の魅力発信に活用する方法を検討することが必要と考える。(駐車場や広場にキッチンカー、駅からセンターまでの道路やセンター敷地内に商業施設の誘致または野菜の直売店や市内商業施設が出店など)
- ・文化センターとして利用するのであれば安心安全な施設でなければならないのは当然だとも思います。また今後20-30年後にも改修を検討することも想定しておくことも必要だと思います。白井市としての方向性や継続性を踏まえた上で優先順位をつけて見直すべきです。ただ箱物としてのハードウェアだけでなくリモートやVR/ARなどのソフトウェアの取り組みも検討すべきだと思います。市民としては時代の変化に対応しながら活用できる施設であって欲しいです。
- ・機能の縮小・廃止があっても文化センターという場所自体は、今後も長く継続して欲しいので、設備の改修はしっかりと行ってもらいたい。
- ・広い松の庭園はすばらしいが、草とり、植木の手入れなどに予算が多く使われているすれば、ボランティアなど人的出費を減らすアイデアが必要と思う。アンデルセン公園、花の丘公園等はボランティアが活動している(施設ではないが)。
- ・現在の文化センターは、白井市の規模からすると明らかに過剰施設であることから、廃止が望ましいと考えます。しかしながら、文化センターの役割や既存建物の利活用を考えると、施設そのものを解体することは現実的ではないと思います。建物を残すのであれば、利用者の利便性の向上や安全確保の観点の工事は必要だと考えます。ただし、建物を残すということは、その後の費用負担が発生することから、ランニングコストの更なる縮減の他、他施設と統合し、市全体の建物面積と維持管理費の削減が必要となります。なお、昨今の物価高騰なども考慮すると、整備費用の大幅な上昇が見込まれます。そこで、社会情勢変化に伴い費用対効果が伴えば、本来の白井市にあった施設を他の場所に整備することも選択の一つになるものと思います。
- ・維持、改修にあたっては、関係法令を遵守し、ランニングコストを含めた財政負担の軽減に努め、利用者の安全性及び利便性に配慮する。
- ・施設を継続利用していく場合は、より長く安全に利用し、トータルコストの縮減等を図るため、適切な改修計画を立案する必要があり、既存不適格部分についても、可能な限り速やかに、改修することが望ましいと考える。

○大ホール

規模拡大(0人) 現状維持(3人) 規模縮小(7人) 廃止(3人) その他(1人) n=14

その他意見

- ・「廃止」を検討する場合、その時期(目安)とその間のコスト等の明記が必要。

○中ホール

規模拡大(0人) 現状維持(2人) 規模縮小(5人) 廃止(5人) その他(4人) n=16

その他意見

- ・中ホールは、廃止し、他の用途に転用することを具申する。トレーニングジムやダンス等の練習場など収益性が見込める施設に転用するか、白井市内の他の公共施設を移管するなど、公共施設の再統合を行うかは、白井市の判断に委ねたい。
- ・機能を廃止し、転用する場合、まず文化センターの郷土資料館の倉庫スペース等を優先的に検討。
- ・ホールとしての機能に加え、会議、ワーキングスペース、パーティー、家族向けのイベントなど今まで以上に多様な利用方法のできるレンタルスペースとして活用する。維持費のかかる設備・機材は順次廃止し、必要な機材は利用者が持ち込むなどの方法に変更するなどコスト削減を行う。
- ・ホール機能を維持し、演奏会又は講演会に活用することが妥当と思われる。又は、ホール機能を廃止し、会議室、貸しスペースとしての転用も考えられる。

○図書館

規模拡大(0人) 現状維持(4人) 規模縮小(6人) 廃止(0人) その他(3人) n=13

その他意見

- ・市内の各図書館で蔵書に個性を持たせるなどの役割分担を行い利用者の住み分けを行う。文化センターの図書館は、庭園も活用して親子連れが利用しやすいことを優先し、読書や読み聞かせ、絵本を題材にしたクッキングなど様々な工夫で子どもの頃から良質な本に触れる機会を提供する。空いたスペースがあれば、ワーキングスペースとして活用する。
- ・図書館は大切な市民の宝と思うが、今後の図書館のあり方としてデジタル化をすれば変化変容も考えられる。
- ・デジタル化等を踏まえ、蔵書数の再検討を行った上で、ワーキングスペースや学習スペースなど、来館者が自由に過ごすことが出来る場所の整備を行うことが望ましいと考える。また、整備にあたっては、子供の遊び場やテラス席など、中庭を是非積極的に活用して欲しい。

○郷土資料館

規模拡大(1人) 現状維持(0人) 規模縮小(5人) 廃止(2人) その他(7人) n=15

その他意見

- ・郷土資料館は、文化財の保存と常設展示の機能を切り離すことを提案する。文化財は倉庫等で保存しつつ、その展示は白井市のホームページに郷土資料館のコーナーを設置し、デジタル化したものをアーカイブして閲覧できるようにする。アーカイブに際しては、白井市の担当部署がその記載内容を充実させていく責務を負うことになる。情報通信技術とデジタル技術によって、郷土

史や文化財が蓄積されることになっても、白井市のホームページ上で常設展示することができ
る。また、周年事業や文化啓発期間などのイベントに際しては、予算が許すのであれば、市役所
などの公共施設で期間限定の展示をしても良いのではと考える。なお、インターネット技術によ
って、いつでも誰でも好きなだけ、白井市の郷土史や文化財を調べることができるため、その効果
は大きいだろう。また新型コロナウイルスなどの感染症が流行した際でも、白井市の文化財に関
心がある人物は、安全に在宅等で閲覧することができるだろう。提案の意図は、文化センター館
内での郷土資料館を廃止し、文化財の保存は倉庫等に移管し、文化財の展示は、白井市のホーム
ページを通じて、情報通信技術やデジタル技術によるインターネット上でのアーカイブ化を主張
するものである。これによって、費用を抑えつつ機能の維持を図ることが期待され、白井市の他
の公共施設の一部を移管できると考えている。

- ・(1) 資料保管及び展示スペースの整備・拡充の検討。(2) 文化センターの組織の再編等の検
討。
- ・他の公共施設と分散展示するなど市民の目に触れる機会を増やす。多くの方が目にしてこそ価値
が高まると思われる。収蔵については文化センターをメインにし、他の公共施設とも可能な範囲
で分担する。
- ・地域の郷土という観点で行くと、鎌ヶ谷や印西、柏との合併が望ましいですが、資料の保管とい
う事ではデジタル化して閲覧できるようにしておくと思いい便利かと思いいます。学校や自宅からリモ
ートで利用できると思いい利便性も上がるかと思いいます。保管場所そのものは他の施設で可能ではないか
と思いいます。
- ・収蔵スペース不足との事なので市内の別場所へ移転や分散。
- ・市の歴史資料の保存、周知する上で機能の存続は必要。収蔵スペースが不足している現状もあるの
で、展示方法の見直しも含めて検討が必要。
- ・市役所ロビーや図書館の一部等に、移転することが妥当と思いいれる。また、近隣市と広域連携を行
い、場合によっては、市外移転する等、効率的かつ効果的に運営していくことが望ましい。

○プラネタリウム館

規模拡大(0人) 現状維持(7人) 規模縮小(1人) 廃止(5人) その他(2人) n=15

その他意見

- ・プラネタリウム館は、廃止することを提案する。廃止後は、白井市の他の公共施設を移管してくる
ことを提言する。千葉県内では近隣の松戸市および船橋市にあること、また東京都内の東側地区に
は公共の施設や民営の施設もいくつもあるので、財政の苦しい白井市があえて維持する必要性が
低いのではないかと考える。プラネタリウム館は十分に役割を果たしたので、デジタル時代に合っ
た対応を進めてはと提案する。一例を挙げれば、上野の国立科学博物館では、「【国立科学博物館公
式】かはくチャンネル」が開設されている。青梅の日本科学未来館でも「MiraikanChannel」も開
設されており、それに加え、教育関係者向けに学習教材の提供や遠隔授業が用意されている。また、
千葉市科学館では、千葉市以外の学校団体は、常設展示とプラネタリウムを無料で鑑賞できると明
記されている。Society5.0を見据え、情報通信技術やデジタル技術の活用が高まり、様々な団
体が情報を積極的に発信しており、多くの人々がそれを利用できる時代になりつつある。科学も例
外ではない。むしろ積極的に活用できるコンテンツを提供している。インターネットに接続する環境

があれば、いつでも誰でも、現地に行くことなく、存分に楽しめる。新型コロナウイルスが予断を許さない状況では、公開コンテンツを利用することこそ、生徒児童園児などの学校教育の利用者にとって、クラスターを回避できる方策ではないだろうか。提案の意図は、プラネタリウム館を廃止しても、近隣の他の公共施設や民営の施設が利用可能である。またデジタル化が推進されている状況では、続々とコンテンツが充実しつつあるので、代替措置も充実しているといえる。デジタル化という時代の波には逆らえない。賢く付き合っていることが賢明であろう。なお、プラネタリウム館の歴史も、白井市のホームページ上にアーカイブ化することを申し添える。

- ・(1) プラネタリウムのリース経費の計画的な確保の検討。(2) 文化センターの組織の再編等の検討。

○エントランス等共用スペース

- ・開放的で広さ高さもあるので、外部空間と連続した活動ができるようにしてはどうか。
- ・利用者の実態に合った有効活用を安価で実現することを提案する。エントランス等共用スペースは、特段の意見はなく、現状の利用者の安全な移動が妨げられなければよいと考える。また喫茶室の跡地利用は、コワーキング・スペースなど社会人に利用可能な施設への転用も一案と考える。さらに学習室については、一人あたりの利用スペースが狭く、電源もないため、利便性が低い。パソコンや資料を広げても作業できるように、スペースの見直しを図ることを提案する。コロナ渦の時代に合った施設の改修や配置が比較的、安価でできると思われる。
- ・庭園、駐車場側の広場とともに飲食可能なスペース（カフェテラスなど）として活用する。曜日や時間を指定して、ピアノなどの楽器を生で聞ける・弾ける場所として活用する。（楽器は市内外からの寄付や学校など公共施設で眠っているものを活用）現在は庭園や広場は集いの場として活用されておらずもったいない。テナント、前述のキッチンカー、フリーマーケットなどに活用し、利用料をもらうなどの工夫も可能ではと思う。結果として年齢を問わず集える場所になるよう工夫する。
- ・中庭をグランピングのようなテント施設で解放しても良いかと思えます。中庭を簡単な野外施設として大ホールや中ホールの機能を一部移転するのもありかと思えます。2階の喫茶室は自動販売機を置き、週末等は市内のお店に出店してもらうのはいかがでしょうか？
- ・エントランスを交流の場として位置づけ、定期的にコンサートやワークショップを行って欲しい。もっと市民が文化会館に足を運ぶ機会が増えるような取り組みがあると良いと思う。
- ・市民の活動報告や作品のスペースとして使っていけばどうでしょう。
- ・不備が無いのであればメンテ含めた現状維持案。
- ・庭園や総合公園とリンクさせ、ストリートピアノやミニコンサートなどができるとうよいと思えます。また、コーヒーや軽食を販売する物販スペースと活用します。2階の喫茶コーナーは、コワーキングスペースとして、有料貸出ができればよいと考えます。
- ・企画展示、図書館開架コーナーに併用。
- ・ワーキングスペースや学習スペースなど、来館者が自由に過ごすことが出来る場所の整備を行うことが望ましいと考える。また、整備にあたっては、子供の遊び場やテラス席など、中庭を是非積極的に活用して欲しい。

